

令和6年度 学校評価書 (計画段階・実施段階)

福岡県立太宰府特別支援学校

特9

自己評価					学校関係者評価			
学校運営計画(4月)				評価(総合)				
学校運営方針		5つの取組の徹底を通して、児童生徒・教職員・学校を大切に、成長を目指す!チーム太宰府			自己評価は			
昨年度の成果と課題		年度重点目標	具体的目標			A : 適切である B : 概ね適切である C : やや適切である D : 不適切である		
学校運営計画に基づく各学部及び各課の目標はほぼ達成できた。特に重点課題研究指定を受けて取り組んだICTを活用した授業づくりと校内体制整備が充実した。今後は、引き続き授業力向上を図るとともに、教職員の専門性向上、人材育成、緊急時対応、防災備蓄の充実等が課題である。さらには、教育課程実践交流会に向けて、観点別評価を生かした指導と評価の一体化を図る取組を推進する必要がある。		児童生徒一人一人に適した教育の充実	○児童生徒の実態に応じた指導の充実と学びの連続性の重視(「鍛ほめ福岡メソッド」の展開) ○資質・能力の育成を目指した授業の充実 ○カリキュラム・マネジメントの確立 ○進路開拓・進路指導・職業教育の充実 ○施設・設備、教材・教員の充実			A	A	
		安全・安心な教育環境の充実	○人権を尊重した指導の充実 ○児童生徒指導の充実 ○安全対策の充実(緊急マニュアルの整備と効果的なシミュレーション)					
		信頼される指導・支援・取組の充実	○特別支援教育のセンター的機能の充実 ○ホームページ・広報活動の充実 ○保護者との連携 ○地域と一体となった学校づくり ○指導・支援・取組に必要な諸条件の整備 ○不祥事防止のための断続的な啓発及び研修					
		組織力の発揮・向上・継承の充実	○分掌組織の縦・横のラインを意識した業務遂行 ○諸課題に対する組織的な取組の推進 ○働き方改革の推進					
人材育成及び専門性の発揮・向上・継承		○人材育成・専門性向上 ○外部専門家との連携 ○校内支援体制の充実						
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(3月)		次年度の主な課題			
A部門 知的障がい、 教育部門	小 児童の障がいの状態や発達年齢に応じた指導及び観点別評価を踏まえた授業の充実	学年及び学習形態に応じた年間計画の見直し【学期末】	A	B	A	児童との関わり及び支援方法について、事例検討を含めた研修を定期的に設定する。ICT教材に限らず各教科等の教材活用に関して、教師間で情報共有し、教材作りの視点や授業作りについて学び合うことができた。来年度も回数を増やして実施する。		
		児童との関わり方や適切な支援に関する意見交換【月1回】	B					
		ICT教材を活用した授業づくりに関する情報共有【年3回】	B					
	中 生徒一人一人の障がいの特性や心身の発達段階に適した指導の充実	計画、指導、評価の一体化に向けた、単元計画の効果的な活用【学期2回】	A	A			本年度から指導・支援方法に関する情報共有を実施し、教師個々の多様な指導・支援方法を共有することで、実践的な学びを深めることができた。次年度は、中学部段階における系統的なキャリア教育の充実に向けて、進路指導部や小・高等部と連携しながら教育課程について検討していく。	
		障がい特性等に応じた指導・支援方法に関する情報共有【月2回】	A					
		学年相互の教師間交流の実施【学期1回以上】	B					
高 卒業後の希望進路の実現と自立と社会参加を目標に、生徒一人一人が社会を主体的に生き抜く力を育成するための継続的な指導の充実	生徒との関わり方や保護者等への対応及び支援に関する研修・情報交換会の実施【年6回】	B	A	進路指導部と情報交換や連携をしながら進路研修会を実施し、進路指導や職業教育を充実することができた。今年度入学生から学級編成や作業学習における作業班の選択等、新たな体制が年次進行でスタートした。今年度の取組を事績として残し、次年度以降に生かしていく必要がある。				
	職業教育の充実と進路指導部と各学年の連携による進路情報の共有と研修会の実施【年3回】	A						
	今年度より年次進行で実施している異なる課程の生徒が混成する学級編成、作業学習の在り方等、高等部の新たな体制における、具体的な成果と課題の検証【随時】	A						
B部門 肢体不自由 教育部門	小 児童の障がいの状態や発達段階に応じた指導及び安全・安心な教育環境の充実	指導内容を明記した単元計画の作成と活用【学期2回】	B		A	学期始めに作成する年間計画と単元計画・指導・評価の一体化を推進する。ミニ研修会・情報交流会を継続実施する。「緊急時対応」の定期的な確認を継続する。児童の実態や状態を共有するための動画活用を推進する。		
		自立活動の指導や児童の関わり方や支援に関する情報共有及び意見交換【月1回】	A					
		「緊急時対応マニュアル」の定期的な確認【学期1回】	A					
	中 個々の生徒の詳細な実態把握と社会を生きぬく力の定着を見通した指導	授業内容の打ち合わせに特化した時間を設定、授業のPDCA化を共有【月1回以上】	B	B	授業内容の打合せは、月1回の学部会及び連絡会等で定期的な実施できた。自立活動の充実のため訓練見学の内容を元にした実践をクラス単位から学部ごとさらに広げていきたい。授業でのICT活用は、これまでの取組を踏まえ、継続的に活用されており、今後も継続していきたい。			
		実践的な研修や療育機関での訓練見学による自立活動の指導の充実【年1回以上】	B					
		訪問教育も含めたICT活用の基礎研究の推進と授業実践による指導の充実【随時】	B					
高 卒業後の進路を見据え、生徒一人一人の可能性を最大限に伸ばすための教師の専門性を踏まえた教育の充実	目指す生徒像実現のための教育課程や指導計画の内容等の検討及び実践【随時】	B	B	昨年度から実施している学部研修を継続し、より良い教育の実現のために、学び続ける学部風土を構築することが課題である。次年度の教育課程実践交流会に向けて、各指導計画のつながりについて、学部教員の理解を深め、教育の充実につなげる。				
	学部研修における各教員の取組や専門性に基づく実践等の共有【月1回】	A						
	校内支援コーディネーターや外部専門家等との連携による、生徒一人一人の実態に応じた自立活動の指導の充実【随時】	B						
教務部 教務課	教育課程実践交流会に向けた、研修課との連携による、教員の授業力向上及び児童生徒の学びの充実 教育環境の更なる整備	研修課と連携した年間指導計画や単元計画の効果的運用推進【7月以降、月1回程度】	A		A	教育課程実践交流会に向けて、次年度も研修課と連携して、全教職員を巻き込みながら実り多いものにしていく。統合型校務支援システムの担当者に限られているため、効率的運用、管理の在り方は今後も検討が必要。引き続き、計画的に各種行事の実施や諸帳簿の管理を行う。		
		統合型校務支援システムと各種諸帳簿の円滑な運用、管理【年度初め、年度末、随時】	B					
		各種行事の計画的実施【各儀式的行事、体験入学、入学説明会等】	A					
項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見							
	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・具体的方策の記述から指導・支援等について情報共有、意見交換が盛んに行われており、学び合いが月2回確実に行われていることがよく分かる。</li> <li>・次年度の課題だけでなく、今年度の成果がきちんと述べられている。</li> <li>・情報の共有を継続して進めてほしい。</li> <li>・個々の力量に合わせた授業風景を見ることができた。</li> <li>・高等部の学級編成等の新たな取組が魅力的である。</li> <li>・中学部の「ちよこっつスキル」の取組は職員数が多いことのメリットだと思う。</li> </ul>						
	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・具体的方策の項目に情報共有、意見交換等がみられ、授業内容について日頃から話題に出されていることがよく分かる。</li> <li>・次年度の課題だけでなく、今年度の成果がきちんと述べられている。</li> <li>・個別指導の充実を実感した。</li> <li>・パソコン検定をより一層頑張ってもらいたい。</li> <li>・教員間の共通理解・情報共有に努めている姿が良い。</li> <li>・B高の評価はAで良い。B部門としても評価Aで良い。</li> </ul>						
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティア養成講座の参加者を増やしてほしい。</li> </ul>						

教務部	庶務課	PTA活動の円滑な運営と広報活動の充実	PTA役員と担当職員との密な連携と協働【行事毎】	A	A	A	ホームページの新システムへの移行を進めることができた。一目で分かりやすい情報の掲載やデザイン、掲載情報の充実等、更に改善・充実させていきたい。	A	・総合型校務支援システムや日常の指導におけるICT活用はこれからもずっと必須のもの。研修・支援部を中心に他の部・課と連携し、取り組んでいただきたい。							
			ホームページの継続的な更新作業【随時】と学校新聞の発行【年2回】	A			広報活動によりボランティア養成講座参加者を増やし、新規のボランティアを増やすことに努める。									
			ボランティア養成講座の開催と計画的な活用【年4回】	B			周辺機器点検や環境整備を定期的に行っていたが、所在不明や無記名の借用があり、呼び掛けを増やし意識付けを強化する。									
	一人一台タブレット端末や周辺機器の点検・環境整備【毎月1回】	A	タブレット端末等の活用マニュアルのデジタル化により、情報共有を図った。今後は、授業に活用しやすいアプリの活用システムの実現を図りたい。													
情報管理課	タブレット端末、各種PC、ネットワーク、貸出機器の適切な管理及び校務や学習場面での利用推進	PC室の貸し出し品や電子黒板の点検・環境整備【学期毎】	B	A	A	A	A	A	A							
		生徒FS、校務用NWフォルダの使用状況の把握と整理の呼びかけ【学期毎】	A													
		情報の共有と研修の充実【随時】	B													
進路指導部	進路指導課	進路実現に向けたキャリア教育	職員・保護者・生徒に向けた情報発信と共有【随時】	A	A	A	進路形成に繋げるキャリアパスサポートを高学部1年から導入できた。今後は個別の移行支援計画を教務課と勘案し、卒業後の進路への系統性を深めたい。	A	・進路決定100%で良かった。 ・卒業予定者全員の進路確保は素晴らしいと思います。ここに至るまでの取組を次年度以降に引き継いでほしい。							
			系統性のあるキャリアパスポートの活用【学期毎】	A			進路指導課から発進する情報を職員や各家庭に届けるルートを整備する。卒業生支援に関わる総会等の方向性を検討する。									
			いじめ防止のための計画的な取組（アンケート等）の実施【月1回程度】	A			A			A	A	A	A	A		
児童生徒指導課	児童生徒指導上の諸課題への未然防止の取組と迅速かつ組織的な対応及び安全対策の充実	SC・SSW・SS等の関係機関との連携及び情報共有【随時】	B	A	A	A		A	A						A	
		専門機関と連携した防災教育や安全教育の実施【学期に1回以上】	A													A
		児童生徒の通学方法に関する適切な管理と本校を利用する車両の効果的な交通誘導	通学バスの運行状況確認とバスコース担当、担任、添乗員との情報共有【週2回以上】				A			A	A	A	A	A		
交通管理課	児童生徒への支援の充実及び職員全体の専門性の向上	自力通学・単独通学生徒の通学路の安全確認の実施【随時】	B	A	A	A	A	A	A							
		年間行事予定表に基づく駐車場の管理と車両の誘導及び移動の周知【随時】	A												A	A
		健康観察【毎日】や身体測定【学期毎】及び各種検診【年1回】による児童生徒の健康状態の把握	A							A	A	A	A	A		
保健課	児童生徒の健康の保持増進を図る保健教育及び健康管理	学校の衛生管理に向けた職員清掃【週1回】と消毒の実施【随時】	A	A	A	A	A	A	A							
		緊急時対応マニュアルに基づく救急処置における校内体制の整備【年2回～3回】	B												A	A
		研究内容等の周知及び各種計画への育成する資質・能力の明記【学校教育研究全体説明及び随時】	A							A	A	A	A	A		
研修・支援部	研修課	育成する資質・能力や人権教育に関する理解の深化	対話・アウトプットを重視した職員研修の実施【年2回】	A	A	A	A	A	A							
			人権教育指導者用手引きの周知【年1回の研修及び随時】	B											A	A
			教員及び児童生徒への支援体制の向上のための校内支援Coの授業巡回【各学部週5回程度】	B						A	A	A	A	A		
支援課	児童生徒への支援の充実及び職員全体の専門性の向上	具体的支援方法明確化のための実態把握や校内人材バンクの活用【随時】	B	A	A	A	A	A	A							
		太宰府市、筑紫野市、近隣高等学校における夏季相談会の実施【夏季休業中に実施】	A												A	A
		安心安全に活動できる施設・設備の充実	施設・設備の定期点検及び修理・整備【随時】							B	A	A	A	A		
事務部	学習活動に必要な教材・教具の充実	教職員と連携した必要な設備等の予算要求【随時】	A	A	A	A	A	A	A							
		教務担当者で連携した必要な教材・教具の充実【随時】	A							A					A	A
		教職員と連携した物品等の点検・修繕【随時】	A								A	A	A	A		

### 自己評価及び学校関係者評価を踏まえた今後の改善策

- ・教育課程実践交流会に向けた観点別評価を生かした指導と評価の一体化を図る取組の推進
- ・知的障がい教育部門高等部の新たな体制充実のための取組の継続と妥当性の検証
- ・実効性のある災害時対応体制の検討及び災害時備蓄品の随時点検及び適切な補充
- ・教職員の働き方の推進と教育活動の質の担保、及び児童生徒・保護者対応等の充実

### 評価項目以外のものに関する意見

- ・働き方改革が推進できている。
- ・防災や進路実現等、PTAと協力して更なる充実を期待する。
- ・PTAからの要望を概ね具現していただきとても評価している。
- ・客観的評価ができる学校評価書になっている。
- ・子供たちの挨拶に心が温まる。
- ・評価が具体的に、個別の教育が行われていることが分かる。